



□研究室方針

建築情報・認知研究室では情報技術を用いた学術研究とデザイン活動を通して、都市・建築空間の形態特性と人の意識の認知特性について研究しています。在籍中の目標にして欲しいことは、

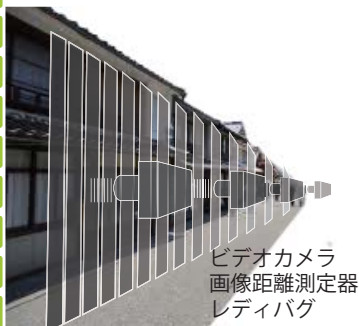
①知的体力(耐力)を養う、②構築力を高める、③表現力を高める、その能力の証明として④対外的評価を獲得する、です。

担当教員：山田 悟史

□所属学生の研究テーマ

- ①景観デジタルアーカイブ作成に向けた空間スキャナの開発 / (映像から連続立面図と3Dモデルを自動作成するソフトを作る)
- ②ドクターヘリの運用効果の可視化に関する研究 / (GISを用いて時間と人口数から効果を測定し適正配置の検討を行う)
- ③自然監視性の定量化と不安感との関係性 / (心理的な要因をふまえて自然監視性(犯罪抑制指標)を定量化する)
- ④街路に対するゆらぎ理論の適用可能性の検証 / (歩行者が感じている建物の色や空の面積の変化をゆらぎ理論を用いて検証)
- ⑤心理量をふまえた街路照明の定量化と安心感との関係性 / (街路空間の物理量(照度分布)を心理量(安心感)を踏まえて定量化)
- ⑥神戸における地域環境の変化と住民の景観認知に関する研究 / (震災復興が地域住民の景観認知に与えた影響とは?)
- ⑦震災時における延焼危険地域の検出 / (阪神淡路大震災で被害の多かった神戸市長田区と類似の地域を国内から検出する)
- ⑧発想法支援アプリ制作 / (スマートフォンを用いた新たな発想法支援ソフトを作成する)

①景観デジタルアーカイブ作成に向けた空間スキャナの開発



ビデオカメラ
画像距離測定器
レディバグ

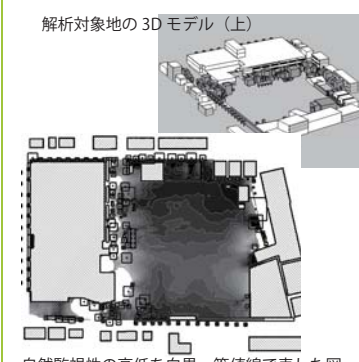
街並みのファサードをスキャニングするような方法とソフトを開発しています。

②ドクターヘリの運用効果の可視化に関する研究



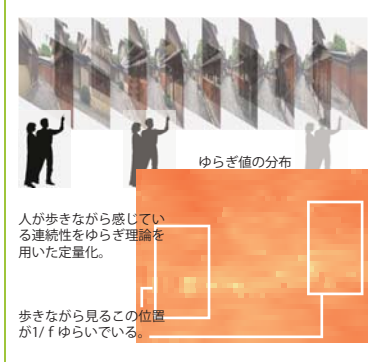
ドクターヘリの効果として医療行為開始までの短縮時間などを測定しています。

③自然監視性の定量化と不安感との関係性



特定建築部位(窓など)が見える割合をその部位が与える心理的な効果をふまえて測定しています

④街路に対するゆらぎ理論の適用可能性の検証

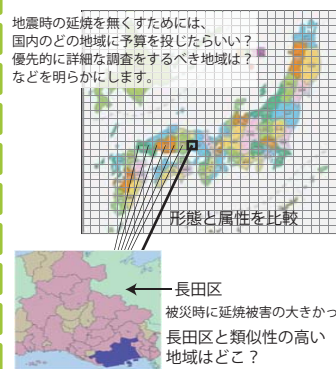


人が歩きながら感じている連続性をゆらぎ理論を用いた定量化。

歩きながら見るこの位置が1/fゆらいでいる。

街と空の面積の連続性を数値で得るため、一歩毎撮影を行い、画像から得た連続計測値のフーリエ変換からゆらぎ値を解析しています。

⑦震災時における延焼危険度の自動検出



地震時の延焼を無くすためには、国内のどの地域に予算を投じたい? 優先的に詳細な調査をするべき地域は?などを明らかにします。

形態と属性を比較

長田区
被災時に延焼被害の大きかった地域
長田区と類似性の高い地域はどこ?

GISと画像処理技術を用いて長田区と類似の地域を検出しています。

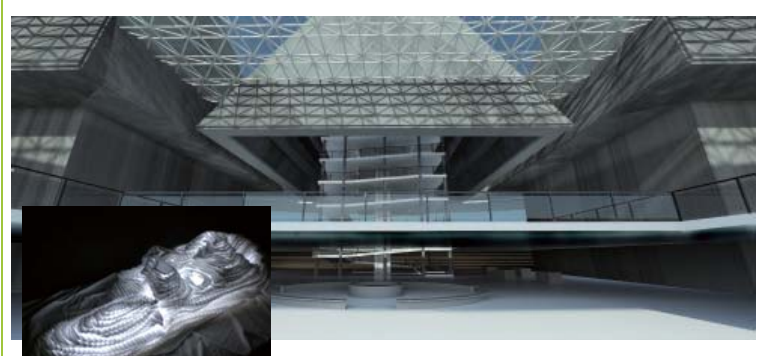
⑧発想法支援アプリ制作



スケッチを描くと、類似事例が見つかる

スケッチを描いたら、似た事例を教えてください。iPadなどのアプリを作ります。

デザイン活動の例：台北美術館コンペ・照明の作成



琵琶湖の照明コンテストで最優秀賞をいただきました。

卒計、卒計、卒計、必死に決死の卒計!

□ゼミ：全体ゼミと研究別での個別ゼミを週に一回ずつ行います。

卒業論文：前期はレビュー・テーマ・計画の作成と研究室の研究活動を通じた技術の習得を行い、後期は本格的に卒業論文

卒業設計：前期は個人での設計競技参加と研究室プロジェクトを通じたCG技術の習得、後期は本格的に卒業設計

□研究室説明会：2011年10月25日・27日 18:00～ 場所：イーストウイング3階建築情報・認知研究室

□連絡先：sy@fc.ritsumei.ac.jp 研究室HP http://www.ritsumei.ac.jp/se/rv/yamada_s/

過去の就職先：SONYコンピューターエンターテイメント、YAHOO! JAPAN、NTTデータ、オックスプランニング、プライズワード、大和ハウス工業、LIXIL、など